

浪江町 道の駅なみえ



贈呈理由

業務用エコキュートとヒートポンプ空調の導入により、
大幅な省エネルギー・CO₂削減を実現



個別分散



ヒートポンプ給湯



道の駅なみえ

町民同士の交流や町の魅力を伝える大型複合施設

浪江町は、福島県浜通り(沿岸部)の北部に位置し、海、山、川に囲まれ、豊かな自然を誇り、大堀相馬焼やなみえ焼そばといった名産品でも有名であるが、2011年3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故のため、町内全域の住民が避難を余儀なくされた。その後、除染やインフラ復旧、生活基盤の再生が進められ、2017年3月31日には、一部地域の避難指示が解除され、居住ができるようになるなど、復興に向けた取組が進められている。

復興のシンボルとして2020年8月にオープンした「道の駅なみえ」は、町民同士をつなぐ交流施設、町民の日常生活を支える商業施設などを有するほか、観光客を迎え入れる玄関口として町の魅力を伝える情報発信機能も備える大型複合施設である。なお、2021年3月には「なみえの技・なりわい館」などを加えてブランドオープンしている。

ゼロカーボンシティの実現に向けて、公共施設のZEB化を目指す

同施設のフードコートなどでは多くのお湯を使用することから、給湯設備は負荷平準化と省エネルギー性に優れた業務用エコキュートを採用した。また、空調設備は、高効率ヒートポンプ空調を導入しCO₂排出量の大幅な削減による環境負荷の低減とランニングコストの削減を実現した。

また、「浪江町復興スマートコミュニティ構築事業」の一環として、太陽光発電のほか、町内で稼働中の世界最大級の水素製造拠点「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」で製造された水素を用いて発電し、照明や

空調などで活用している。

浪江町では、ゼロカーボンシティの実現に向けて、再生可能エネルギーの地産地消や水素の利用などを推進することとしており、公共施設のZEB化などを通じた省エネルギーや、立地企業との連携によるカーボンニュートラルに向けた蓄電池関連産業の集積、低炭素素材・資材などの研究開発・実用化などを推進していく。



業務用エコキュート貯湯槽



業務用エコキュート

道の駅なみえ

所在地：福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字知命寺60
建設設計：(株)関・空間設計
建築施工：安藤ハザマ・東北工業建設共同企業体
設備施工：(株)関・空間設計
延床面積：3,500㎡
竣工：2020年新設
URL：<https://michinoeki-namie.jp/>

■設備概要

業務用エコキュート
30kW×1台【三菱重工業】
貯湯槽4.5㎡
空冷ヒートポンプ(ビル用マルチ)
10台、能力計643kW【三菱電機】

